2024年1月7日（日）第二礼拝　「祝福を与えなさい」Ｉペテロ３章９節

「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」

第一番目、神様の言葉は創造の力があります。神様は言葉によって天地創造されました。神様は御言葉であり、御言葉には力があります。神様は私たちを神様の似姿に造られました。それは「言葉を使う者として造られた」という意味です。私たちはその言葉で地の全てのものを支配する者です。脳科学者たちは、言葉が脳の９８％に影響を与えると言っています。ですから、行動を変えたいなら、言葉を変えなければいけません。私たちは口の言葉の管理者なのです。罪によって堕落してしまった人間は、サタンの語る死の言葉を使うようになり、周りにはいばらとあざみが生じ、破滅の運命となってしまいました。その人間を救うために、神様はアブラハムを選び、祝福の言葉を与えました。そして、アブラハムの子孫であるイエス・キリストによって、全ての死の言葉は十字架にかけられ、イエス様はよみがえられました。イエス様はいのちとよみがえりの言葉です。それを証するのが聖霊様です。この神様のいのちの言葉である聖書を学ぶことは、とても大切です。年に一読することをお勧めします。

第二番目、称賛の言葉です。祝福とは、ラテン語で「ペネティオ」(「ペネ」は良い、「ティオ」は語る)、すなわち称賛です。神様が天地を造られて全て良しとされました。神様の造られた天地万物全てを感謝し、主の良くしてくださったことを何一つ忘れず、賛美と感謝を主に捧げることが大切です。エジプトの奴隷生活からイスラエルの民を救い出してくださったように、サタンの支配から私たちを救い出し、乳と蜜の流れるカナンの地を約束してくださっています。そして、その約束の地に行くために、私たちは荒野という人生を通ります。カナンの地を偵察した 12 名のうち 10 名は現状を正確に報告しました。それを聞いた民は泣き、「エジプトに帰ろう、荒野で死んだほうがましだ」と叫びました。その言葉通り、皆荒野で死んでしまいました。しかし、ヨシュアとカレブはカナンの地を信仰の目で報告し、彼らだけがその地に入ることができました。ですから、現実がいくら否定的に見えても、信仰の目で見て語りましょう。また、御言葉であるイエス様を入れて語ることが大切です。

第三番目、重荷を負い合うことです。「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法(愛)を全うしなさい。」（ガラテヤ 6:2）多くの人が孤独の中で生活をしています。イギリスには孤独担当大臣がいます。日本では、老人が孤独ゆえに自ら刑務所に入ろうとします。今、私たちに何ができるでしょうか。まず、相手に関心を持ち、相手の必要を知ることが大切です。そして、神様の愛の目線で兄弟姉妹の重荷を負い合いましょう。重荷は様々ですが、霊的な戦いの最前線に立つ牧会者のための祈り、霊的に圧迫を受けている兄弟姉妹たちを解放すること、更に、生活の様々な支援、被災地への支援などです。私たちがもっている賜物は、物質的もの、霊的なものであれ、全て主から与えられたものです。私たちはその良い管理者となり、兄弟姉妹に必要な助けをしていきましょう。アーメン！